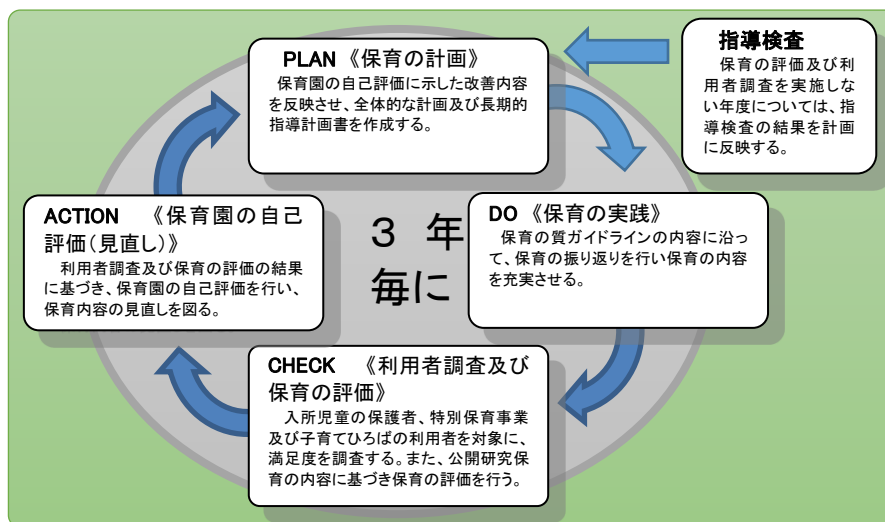


# 令和4年度 八王子市立保育園（公設公営園） 保育所の自己評価

国は、平成29年（2017年）3月31日に公示された新保育所保育指針の中で、「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。」と明記しています。また、八王子市は、平成30年12月に、公立保育園が八王子市の保育における中核的な役割を果たしていくため、「八王子市（公設公営園）保育の質ガイドライン」を策定しました。

保育園が、保育施設としてその運営や保育内容等について保護者の皆様や地域の皆様に説明することは、保育所の重要な責務です。このことを踏まえ、公立保育園では保育の質の向上を図るために、利用者調査、公開研究保育とともに保育所の自己評価を実施しました。

今後は、評価の結果を踏まえ当該保育所において保育内容等の改善を図るとともに、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより強固なものとなるようにしてまいります。



## 評価責任者

八王子市子ども家庭部 子どもの教育・保育推進課 富士見台保育園  
施設長 日巻 春美



令和4年度（2022年度） 保育所の自己評価 評価結果

評価項目	評価結果	評価結果・具体的事例および改善方法
<p><b>保育の方針 1</b></p> <p>子どもが人格を形成していく上で、自己肯定感を持つてるようにすることが大切である。職員は、子どものあるがままを受け止め、自分の意思を自由に表現できるように保育の中で援助していく。</p>	79%	保育者は子ども達一人ひとりに応対的で丁寧な関りをしている。また、保育の中で子どもの声に耳を傾け、子ども達と話し合ったり、子ども自身が選択し、自己決定できる環境を作っている。今後は知的好奇心を高められる環境や、子どもの主体活動が生きる環境構成をより工夫していく。
<p><b>保育の方針 2</b></p> <p>子どもが保育園生活をおくる上で必要なルールを知らせるとともに、人にはそれぞれ違いがあり、その違いを認め合うことを伝えていく。</p>	83%	年齢による違いや、個々の発達の特性を子どもなりに理解し、付き合えるような雰囲気があり、異年齢保育が成熟しつつある。生活と遊びの中で必要なルールがあることや、ルールを守ることが大切だということを知らせている。
<p><b>保育の方針 3</b></p> <p>人の成長には豊かな経験が必要であり、特に乳幼児期においてはそれが実体験でなくてはならない。人的・物的な環境を整え、自然に集団となつてあそぶ中で様々な体験ができるようにしていく。</p>	81%	落ち葉や、霜柱、坂道、自然物に触れ、自然の中で体を動かしたり実体験が多く取り入れられている。また、子どもの意見を取り入れながら制作活動が行われている。行事で行った活動がクラス関係なく継続的に遊びとして続いていたり、遊びの続きを後でできるような環境が保障されている。
<p><b>食育</b></p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみながら自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。</p>	53%	調理員が保育室を回り喫食状況をみたり、配慮を必要とする子どもへ個別対応がされている。また、食材を子どもに紹介するなど食に興味関心が持てるような取り組みがされている。 アレルギー対応に関してはマニュアルの再確認と遵守を徹底するなど事故のないようにする。
<p><b>子育て支援</b></p> <p>子どもの健やかな育ちを保障するため、家庭との連携を深めるとともに、在園児保護者及び在宅の子育て家庭における養育力が向上するよう援助していく。</p>	77%	保護者との日々のコミュニケーションを図りながら個人面談、懇談会で子どもの理解が深まるように支援している。在宅家庭へは今年度からひろばを再開し、利用者へ丁寧に関わり育児の悩みなどを聞きアドバイス等を行っている。
<p><b>職員の資質向上</b></p> <p>保育者に求められる専門性や倫理観を高めるため、保育の質の確保に向けた取り組みを組織的に行う。</p>	74%	外部研修に参加し、研修資料を回覧したり、会議で報告をし内容の共有化をしている。また、園内研修や、定期的に職員間で話し合いを行うなどして保育の質の向上に努めている。
<p><b>安全管理と災害への備え</b></p> <p>日々、子どもたちの健康に留意するとともに、災害や事故に対する準備と心構えを持ち、それに係る訓練などを欠かさずに、子どもの安心・安全を守る。</p>	82%	子どもの特性や年齢に応じた安全な園舎を心掛けている。流行性疾患、ケガや事故、危険箇所などの情報はすぐに職員に周知し再発防止に取り組み子どもの安心・安全を守っている。また毎月、災害時の避難訓練を行っている。